

「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア

1 単元名

第6学年 「やまなし」「資料：イーハトーヴの夢」（光村図書）

2 単元目標

- ・情景や独特の表現に興味をもって読み、作品や資料から宮沢賢治の生き方を考えることができる。（国語への関心・意欲・態度）
- ・場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめ、交流することができる。（読む能力）
- ・目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。（読む能力）
- ・作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に関心をもつことができる。（言語についての知識・理解・技能）

3 指導にあたって

(1) 児童の実態

これまで、学校生活全体の中で「言葉を増やす」「言葉に親しむ」という視点から様々な取組を通して読書に親しませるよう努めてきた。毎週金曜日に行う教師等による「読み聞かせ」、総合的な学習の時間に行った「1年生に読み聞かせをしよう」、「隙間読み」の指導、絵本袋の利用、子ども新聞の購読などの取組である。このような取組によって、「読むことができる」環境、「読まなければならない」環境を作るための条件整備を行ってきた。その中で、子どもたちは随分本に親しめるようになり、読書が身近なものになりつつある。

一方、国語科における「読むこと」の学習については、これまで、体験や実感をもとにして共感的に作品を読ませ、考えを交流させることを意識して指導してきた。児童は、物語文教材「カレライス」の学習で、登場人物の視点から心情とその変化を共感的に読んだり、読者である自分の視点から叙述に即して主人公について考えたりすることができた。また、説明文教材「生き物はつながりの中に」の学習では、教材文から大切な言葉を探しながら文章構成をつかんだり、筆者の考えを読み取ったり、筆者の考えに対しての自分の意見をもったりする活動を行い、文章の要旨をとらえることと筆者の考えに対して自分の考えをもつことを学習した。その結果、文章の記述内容を抛り所として自分が想像した登場人物の気持ちを考えたり、文章の構造と要旨をとらえ、筆者の考えに対しての自分の意見をもったりすることができるようになった。

しかし、この「読む力」が他教科・日常生活の中には十分活用されていないこと、今まで出会ったことのない文章や書きぶりに慣れるのに時間がかかること、友達の考えを受けて自分の思いや考えを深めて発言できないこと、自分の考えの変容を的確に説明できないこと、様々な表現方法を用いて話し合いを深めたり広げたりすることが不十分であることが課題としてあげられる。本単元では、一つ一つの表現や言葉を大切にしながら、その言葉や表現の仕方からイメージを膨らませ、作者の思いを推測し、読みを深める力を身に付けさせたいと考える。また、小学校の「読むこと」の能力における完成段階として、一つの言葉にいろいろな想像を加える力、表現を味わう力、叙述について自分の考えをもてる力を育てたい。

これら「表現や、言葉の使い方から作者の思いを推測する」ことは、今後、子どもたちが成長して社会参加し、多くの人と接していく中で、決して欠くことのできない重要な力となると考える。

(2) 身に付けさせたい力

「やまなし」「資料：イーハトーヴの夢」の指導を通して付けさせたい力は、情景や人物を叙述に即しつつ想像を働かせてとらえ場面を対比させて読むことと、作品に描かれた世界の意味を考え、作者の考え方や生き方を知ることである。

本単元は、「作品の世界を深く味わおう」という大きなねらいのもと、まず、宮沢賢治の作品である「やまなし」と出会い、その後、「資料：イーハトーヴの夢」で作者の生き方・考え方に触れ、それらを関連させて読む中で、作品世界と作者の生き方・考え方を重ね、自分の考えを深めていく学習展開となっている。「作品の世界を深く味わう」ためには、場面の様子をとらえて優れた叙述に気付く力、二つの場面を比べて読むことで作品の特徴や作者の思いをとらえられる力、複数の本や文章を比べて読んで作者のものの見方や考え方について考える力、本を読んで考えたことを発表し合い自分の考えを深める力などが必要となってくる。

「やまなし」には「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」が対比された世界が描かれている。また、比喩表現や擬声語・擬態語、色彩語などの表現が多用され、宮沢賢治独特の作品世界を形成している。表現に目を向けて読むということは、文学教材の学習で重ねてきていることである。これまでの学習を想起させながら、それらをさらに発展させ、二つのものを比べながら読み、その違いをとらえる力、作品の構成や表現上の特色を踏まえ、自分の考えをもてる力を育てたいと考える。そして、「資料：イーハトーヴの夢」では、作者の信念と、その信念に従い、目的をもって生き抜くという強い意志による行為、また、そこから生み出された作品が長く人々の共感を呼んでいるわけを、6年生なりにじっくり考えさせたいと考える。

(3) 指導の力点

指導にあたっては、はじめに「やまなし」の文章構成をおおまかにとらえ、読者の視点(幻灯)から、かにの視点(「五月」と「十二月」の場面)へ、最後に再び読者の視点へ移行していくことを確認する。また、児童の興味や疑問から課題を設定していくようにする。

次に、かにの心情や人物像を、児童自身の問題意識と関わらせながら共感的に読み取らせていく。そのために、書き込みをさせたりウェビング図を作成させたりして、じっくりと言葉一つ一つのイメージを膨らませ、叙述に即して自分の考えをもてるようにしたい。また、擬声語・擬態語、色彩語、比喩表現などに着目させて情景を豊かに想像できるようにするとともに、表現の仕方によって受け取るイメージが異なってくることも取り上げたい。ただ、想像することは読み手の知識・体験と大きく関わるため、個人差が生じる。あくまでイメージや想像は、言葉から始まり言葉に還ることを共通理解させるため、言葉を目に見える形で掲示するなどし、言葉意識を促したい。また、小グループなどでの話し合いを積極的に取り入れ、話すために自分のイメージを言語化することや、友だちの意見を聞くことによって言葉のとらえ方を多様にし、さらにイメージを膨らませたいと考える。

さらに、「五月」と「十二月」の場面を読んだ後で、二つの場面を対比して読ませ、一見矛盾する現象に相違点や類似点を見付けさせながら、作者の理想や願いについて考えを深めさせていきたい。

最後に、「資料：イーハトーヴの夢」でとらえた作者の生き方や考えを基に他の作品を読み、感じたことや学習全体を通して学んだことを交流していきたい。人間の内面に深く関わる事柄に満ちた作品を生み出し、生きることへの切実な問いを繰り返した作者の人間像に気付き、さらに他の作品から作者の思いや理想を感じ取ることは、単に文学的文章の読み方を上達させるだけでなく、人間や世界に対するものの見方を育むことにつながると思う。学習に広がりや深まりが求められるため、宮沢賢治の作品を並べるなどして、自分が気に入った言葉や文、読んだ本、感じたことなどを、消え去るまでにノートに書き留めさせたりファイルに綴じさせたりして、「自分の考え」が浮き出てくるような工夫、目に見えてくるような工夫をしたいと考える。

4 評価基準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・情景や独特の表現に興味をもち、宮沢賢治の作品や生き方を知ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述についての自分の考えをまとめている。 ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。 ・作品の中で使われている比喩などの表現上の特色について気付いている。

5 関連させる「指導例」

『注文の多い料理店』評（作成：滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会授業改善部会 国語部会）

6 「指導例」の位置付け

本単元の教材「やまなし」は、児童にとっては理解しにくい内容の物語である。本学級の児童も、「言葉が分からない」「何が言いたいのか分からない」「どういう展開になっているのか分からない」など、読解の際には大変戸惑うであろうと予想される。そこで、少しでも読解に対する抵抗を和らげるため、本単元の学習前に、指導例『注文の多い料理店』評を取り入れることとした。この「指導例」で、宮沢賢治の作品の一部を読む学習を通して、今までに読み慣れていない文章に対する見方や読み方をとらえさせ、表現の特徴に目を向けたり、比べ読みをして自分の考えをまとめたりする力を身に付けさせたいと考えたからである。

7 指導計画（全9時間） ※太枠の部分は「指導例」を活用した授業

次	時	本時の目標	学習活動（○印：評価規準 【 】：評価方法）	指導事項との関連
第一 次	1 (本時)	<p>二つの文章を比べながら読み、その違いをとらえることができる。</p> <p>作品の構成や表現上の特色を踏まえ、自分の考えをもつことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料A、Bの終わり方を比較し、表現上の特色を踏まえて自分の考えをもつ。 ・資料Cを基に、文章を比較しながら自分の考えをまとめ、交流する。 <p>○二つの文章を比べながら読み、その違いについて考えようとしている。【発言の様子、ワークシートの記述】</p> <p>○作品の構成や表現上の特色を踏まえ、自分の考えをもち、まとめようとしている。【ワークシートの記述】</p>	<p>〔C 読むこと〕イ</p> <p>〔C 読むこと〕オ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(カ)(キ)</p>

第二次	1	<p>「やまなし」の題名と最初の一文から、内容を想像することができる。</p> <p>初発の感想をまとめ、交流することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「作者の生き方や考え方と重ねて作品を読もう」という学習課題をもつ。 ・本時のめあてを確かめる。 ・「やまなし」の題名と冒頭の一文から想像したことを書き、発表する。 ・全文を音読する。 <p>○「やまなし」を音読して、擬態語や擬声語のおもしろさに気付きながら、初読の感想を書こうとしている。【音読の様子、ノートの記述】</p>	<p>〔C 読むこと〕ア 〔C 読むこと〕イ 〔C 読むこと〕エ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(ク)</p>
第3次	1 2	<p>「五月」の場面を読み、様子を表す言葉や比喩表現に着目しながら、谷川の情景や「かにの親子」の様子を想像することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・擬声語や擬態語、比喩表現に着目し、情景描写を読み取る。 ・「かわせみ」の出現で変化する「かにの親子」の様子を想像する。 <p>○擬声語や擬態語、比喩表現、会話の様子などから、「五月」の谷川の様子を想像しようとしている。【ノートの記述、話し合いの様子】</p>	<p>〔C 読むこと〕イ 〔C 読むこと〕エ 〔C 読むこと〕オ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(カ)(キ)(ク)</p>
	3	<p>「十二月」の場面を読み、様子を表す言葉や比喩表現に着目しながら、谷川の情景や、「やまなし」の出現で変化していく「かにの親子」の様子を想像することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・擬声語や擬態語、比喩表現に着目し、情景描写を読み取る。 ・「やまなし」の出現で変化する「かにの親子」の様子を想像する。 <p>○擬声語や擬態語、比喩表現、会話の様子などから、「十二月」の谷川の様子を想像しようとしている。【ノートの記述、話し合いの様子】</p>	<p>〔C 読むこと〕イ 〔C 読むこと〕エ 〔C 読むこと〕オ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(カ)(キ)(ク)</p>
	4	<p>「五月」と「十二月」から読み取ったことを想起しながら、二つの場面を比べ、共通点や相違点について感じたことを交流することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水の様子や色、かにの会話や様子などに着目して「五月」と「十二月」を比べ、共通点や相違点について交流する。 <p>○谷川の様子やかにの様子に着目して「五月」と「十二月」を比べ、感じたことを交流しようとしている。【ノートの記述、話し合いの様子】</p>	<p>〔C 読むこと〕オ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(カ)(キ)(ク)</p>
	5	<p>「資料：イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方のもとになった出来事や作品が誕生した背景などを年表にまとめることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年号を書き出し、それに沿って賢治の言葉や行動などを年表としてまとめる。 <p>○宮沢賢治の生き方や考え方のもとになった出来事や作品が誕生した背景などを年表にまとめようとしている。【年表の記述】</p>	<p>〔C 読むこと〕イ 〔C 読むこと〕ウ 〔C 読むこと〕オ</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イ(キ)</p>

	6	宮沢賢治の生き方や考え 方について話し合い、作 者が「やまなし」という 題名を付けた理由につい て、考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料：イーハトーヴの夢」で読み取ったこと をもとに、宮沢賢治の生き方や考え方に、自分 なりの考えをもち、話し合う。 ・作者が「やまなし」という題名を付けた理由を、 「資料：イーハトーヴの夢」から学んだ作者の 生き方考え方と関連付けて考える。 <p>○宮沢賢治の生き方や考え方について話し合い、 作者が「やまなし」という題名を付けた理由に ついて考えをまとめようとしている。</p> <p>【ノートの記事、話し合いの様子】</p>	[C 読むこと] オ
第 四 次	1	「やまなし」「資料：イ ーハトーヴの夢」を読ん で考えてきたことと、賢 治の他の作品を読んで感 じたことを関連付けて話 し合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」「イーハトーヴの夢」に関連付け て、今まで読んできた宮沢賢治の作品を紹介す る。 ・「本は友達」を読んで、読み広げたり読み深め たりする観点を確認する。 <p>○宮沢賢治の複数の作品を読み、その特徴や作品 の意図をとらえ、より深く作品を味わおうとし ている。 【話し合いの様子】</p>	[C 読むこと] カ 〔伝統的な言語文化 と国語の特質に関す る事項〕 イ(カ)(キ)(ク)